

「新県立博物館事業実施方針」の推進状況について（平成21年10月5日）

事業実施方針で示した4つの取組テーマにそって、21年度の取組を進めています。

取組テーマ2

連携が進む環境づくり

多様な主体との連携を進めるために、対話や試行的な連携事業、それらの成果の検証などを行い、開館後に本格的な連携を展開するための下地を整えます。

21年度の取組

- ・三重大学との連携事業 →(3)
- ・地域の団体との連携事業 →(4)
- ・県内博物館との連携事業 →(5)
- ・学校との連携事業 →(9)

取組テーマ4

魅力的な博物館づくり

ご意見をうかがいながら、わかりやすく、親しみやすい博物館への取り組み、ミュージアムショップ等のあり方などの検討を行い、内容に反映させます。

21年度の取組

- ・アンケート・モニター調査 →(7)
- ・伝えて広めるプロジェクト →(8)
- ・ティーンズプロジェクト →(11)

取組テーマ1

参画のしくみづくり

一人ひとりの興味や関心、ニーズに応じて博物館の活動や運営に関わることができる多様な参画の機会をもった新博物館を実現するための参画のしくみづくりを進めます。

21年度の取組

- ・ミエゾウの足跡化石調査 →(1)
- ・博物館を知るWSの開発 →(2)
- ・みんなで作る博物館会議(仮称) →(10)
- ・ティーンズプロジェクト →(11)

取組テーマ3

評価のしくみづくり

館のめざす姿や理念を確認し、これに照らして評価を行うため、評価のあり方、指標の設定、具体的な実施方法などについて、県民・利用者の皆さんとともに、検討します。

21年度の取組

- ・移動展示(展示内容の構築) →(6)
- ・みんなで作る博物館会議(仮称) →(10)

新県立博物館の開館に向けて必要となる取組のうち、ソフト面の取組についての推進状況は次のとおりです。

(1) ミエゾウの足跡化石調査

三重県立博物館では、ミエゾウ研究の基礎資料を得るため、本年4月30日から5月6日の期間に、鈴鹿川水系の支流である御幣川（おんべがわ）流域（鈴鹿市伊船町）において、ミエゾウなどの足跡化石の調査を行いました。

調査の実施にあたっては、新博物館がめざす協創と連携による先駆的な取組として、県内外の学術団体、博物館サポートスタッフ、鈴鹿市など、多様な主体の協力を得て行うとともに、地元の小学生にも化石発掘の体験をしてもらい、地域に対する興味関心を高めるきっかけとしました。

また、速報展「やっぱりゾウは歩いていた 御幣川ミエゾウ足跡化石調査より」を県民ホールにて、5月25日から6月12日まで開催しました。その後、地元鈴鹿市役所でも、9月1日から10日まで展示を行いました。

(2) 地域・県内博物館と連携した博物館を知るワークショッププログラム開発

（文化庁事業）

「博物館ってどんなところ？」をメインテーマに、地域・県内博物館と連携して、「モノってなあに？」をテーマに、こどもを対象とした3種類のワークショップを開催し、その成果をもとに、博物館を知るワークショップ（WS）プログラムの開発に役立てます。

9/26 第1回 「本物に出会ったドキドキを誰かに伝えよう」

講師：竹内伸子さん（絵手紙作家）

11/1 第2回 「いざ子ども 石の上にも3年」

講師：塩瀬隆之さん（京都大学総合博物館准教授）

11/21 第3回 「物の語りを聞く - お茶箱プロジェクト - 」

講師：佐藤優香さん（国立歴史民俗博物館助教）

(3) 三重大学との連携事業

本年3月に三重大学との協定を締結し、今後の連携方向等について、三重大学とともに、連携協議を行っています。

本年度は、三重大学との共催で、大学、地域、博物館、文化力をキーワードに3回のシンポジウムを開催します。

これらのシンポジウムにおいて、今後の大学と連携した取組の方向や具体策を模索するとともに、連携を他の県内大学に広げ、県外の大学や学術団体等との交流、ネットワークづくりにもつなげることをとしています。

10/29 第1回「文化力・地域の活性化と大学の役割」

11/15 第2回「博物館と大学の連携により進める人づくり」

12/5 第3回「文化力と地域の活性化を拓く博学連携(博物館と大学との連携)」

(4) 地域の団体との連携事業

地域の団体との連携事業に取り組む中で、資料の収集保全、調査研究等の博物館活動とともに進めるための人的なネットワークづくりを行うこととしています。

できることからはじめることとし、本年3月には、県内の自然系の団体等による「しぜん文化祭」に協力するとともに、シンポジウムを同時開催しましたが、本年度も引き続き、企画段階から協力・参画する予定です。

また、人文系の団体などと連携した取組として、来年1月からの熊野市での移動展示に向けて、熊野古文書同好会、三重大学、県立熊野古道センターと共同で地域資料についての調査を行いました。

今後、この成果をまとめ、移動展示の内容とするとともに、調査報告会を共同で行うこととしています。

(5) 県内博物館との連携事業

県内博物館50館が参加する「三重県博物館協会」に、今後の連携に向けた検討のためのワーキングを設けました。

また、(2)地域・県内博物館と連携した博物館を知るワークショッププログラム開発については、松阪市、伊賀市、桑名市の3か所で、松阪市文化財センター、芭蕉翁記念館、忍者博物館、桑名市歴史博物館の4館と共催で実施しています。このことは、互いのスキルアップの向上と人的なネットワーク形成につながっています。

(6) 移動展示(展示内容の構築)

移動展示等への来場者に対し、アンケートを行いました。あわせて、こうした試行による成果を今後の展示内容の構築につなげていきます。

なお、各移動展示会場に、博物館のPRコーナーを設置して、新博物館について知ってもらう場としています。

(7) アンケート、モニター調査

移動展示をはじめ、多様な機会を活用して、先に公表しました新県立博物館の概略設計案を、パンフレット、パネルや模型などを用いて、県民・利用者の皆さんにお知らせするとともに、意見等をお聞きする取り組みを進めてきました。

(8) 伝えて広めるプロジェクト

(文化庁事業)

文化庁事業として実施する博物館の基盤整備のための取組です。

(2)のワークショップ(プログラム)及び(11)のティーンズプロジェクト(プログラム)の成果をもとに、博物館のおもしろさをより多くの人に広げていくために、関係者で企画内容を検討しながら、普及用のパンフレットの作成と活用、県内

一円でのケーブルテレビの記録番組放映を行います。

新 (9) 学校との連携事業

三重県教育委員会が実施している「みえの「文化力」学校展開プロジェクト」と協力して、学校現場の状況を把握しながら、新博物館と学校との連携方策について、検討をはじめました。

【みんなでつくる博物館のためのしくみづくり】

みんなでつくる博物館のためのしくみづくりとして、「みんなでつくる博物館会議（仮称）」及びティーンズプロジェクト「こども会議」を開館前から進めていきます。

(10) みんなでつくる博物館会議（仮称）

新博物館に向けた取組の進捗状況について報告し、県民の皆さんとオープンに意見交換をする場として開催します。（1月開催予定）

みんなでつくる博物館会議は、年間を通じ、地域や大学などのさまざまな場を活用して意見交換を行った成果を集約しながら、「新博物館の活動と運営 VOL1」について、県民の皆さんとともに考える場とします。

(11) ティーンズプロジェクト（こども会議）

（文化庁事業）

開館後のこどもたちの参画の場をどのように設けていくのか、ということ課題としながら、本年度については、こどもたちの思いを新博物館に反映していくため、こども会議を開催します。

具体的には、文化庁事業のプログラムのひとつとして開催し、現場研修やワークショップなどを通じて、「博物館とは？」ということを経験しながら、こどもたちの新博物館への思いをかたちにしていけるような場としていきます。

8/8 第1回 オリエンテーション（わたしたちにとって博物館って？）

8/22 第2回 滋賀県立琵琶湖博物館見学ツアー
（博物館ってどんなところ？表も裏も見てみよう！）

9/19 第3回 兵庫県立考古博物館見学ツアー
（博物館ってどんなところ？調べてみよう！）

を実施し、今後ワークショップやミーティングを重ねて、最終的に11月28日に、10代と大人が博物館をめぐる対話する「こども会議」として、その成果を発表します。